

め で る



「夏の宿泊研修・善水寺（湖南省）にて」

2 スポットライト
甲賀市の地域医療・保健・福祉について

甲賀市健康福祉部健康推進課 課長 西田 薫

4 特集
夏の宿泊研修 in 甲賀市、湖南省 2016

13 地域自慢
甲賀市信楽町 焼物とお茶の生産が盛んな高原の町

14 「人」
医療生協こうせい駅前診療所 所長 佐々木 隆史

16 病院紹介
ヴォーリズ記念病院

18 報告
開催報告／参加報告

22 紹介
滋賀医科大学男女共同参画推進室／
滋賀県医師キャリア・サポートセンター

24 ご入会・ご寄附のご案内／
編集後記

Contents

甲賀市の地域医療・ 保健・福祉について



甲賀市健康福祉部健康推進課 課長 西田 薫

甲賀市は、滋賀県東南部に位置し、大阪・名古屋から100キロメートル圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点にあります。信楽焼や甲賀流忍術、中世城郭が有名で、寺社仏閣など貴重な文化財も広範囲に数多く存在しています。平成16年10月1日に水口町・土山町・甲賀町・甲南町・信楽町の5町が合併し、12年を歩んできました。

市全体の総面積は、481.62km²と広く、山林が67.4%を占めています。平成28年4月1日現在の人口は、91,949人であり、平成20年をピークに徐々に減少傾向にあります。また、高齢化率は23.2%であり、平成23年から1.3%上昇しています。世帯数は、34,308世帯であり核家族が増え、一人暮らしや老夫婦世帯も増えています。若者世帯も親世帯との同居が少なくなり、子育てにおいては協力してもらうことが以前よりも難しくなっています。外国人登録者数は、2,641人であり外国籍の人の割合が県内でも高い特徴があります。市で就業人口が最も多いのは製造業ですが、地域によりお茶や陶器などの特産があり、市を構成する5つの地域はそれぞれに産業や文化、地域のコミュニティに特徴があります。

市の山村部では人口減少や高齢化が進行するとともに少子化がすすんでいます。出生数は、平成27年で総数664人であり、徐々に少なくなっています。その中で低体重児の出生は、出生数の1割を占めています。出生時から医療が必要な子どもや成長の中で発達や障がいなど支援を要する子どもの割合が増えてきています。

次に、死亡の状況をみると平成27年の死亡数は、927人であり、疾病要因をみると悪性新生物が25.4%と一番多く、次いで肺炎が18.1%と多い状況です。悪性新生物の中では、肺・気管支がんが24.7%と一番多く、次いで胃がんが多い状況です。標準化死亡比で見ると、男女とも交通事故が多く、次いで男性は、慢性閉塞性肺疾患が多く、女性は心不全が多い状況です。

国保の医療費としては、平成26年10月から1年間の医療費は、約525,130千円であり、患者一人当たりの平均医療費は、52,745円です。疾病別にみると循環器疾患や悪性新生物の医療費が多い状況があります。患者数としては、高血圧性疾患が多く、次いでその他の内分泌、栄養及び代謝疾患や糖尿病が多い状況です。また、患者一人当たりの医療費をみると、白血病と腎不全が高額であります。腎不全から透析が必要となり透析を受けている患者は78人おり、糖尿病性からくる透析患者が半数以上を占めています。

市の医療機関は、二次医療圏の急性期・回復期医療としての公立甲賀病院をはじめとして、慢性期・回復期医療としての甲南病院・市立信楽中央病院・国立紫香楽病院・ハートクリニックところがあり、精神科をもつ水口病院があります。一般診療所としては、32ヶ所あり、各地域においてかかりつけ医として地域医療を支えています。



▲甲賀市特産物

甲賀圏域(甲賀市・湖南市) 7ヶ所の病院の病床数は、全国・県と比べて少ない状況にあります。病床利用率は91.5%と県に比べ高い状況です。入院受診者及び外来受診者の内科・整形外科の患者が多い状況です。また、小児科・産婦人科の医師数が少ない状況があります。患者の受診行動をみると、圏域における入院医療の完結率^{※1}は、ほぼ県平均ですが、外来の完結率^{※1}は、73.4%と県と比べ低い状況です。疾患別にみると、小児科・外科・産婦人科・耳鼻咽喉科が完結率^{※1} 30~40%と低い状況があります。県地域医療構想より入院医療の完結率^{※1}をみると高度急性期は51.9%で低く、回復期・慢性期は70%以上ある状況です。

在宅医療については、市在宅医療推進センターの拠点を設置し、在宅医療推進検討会を持ち、多職種で連携をしながらすすめているところです。

表1 医療機能別年齢別完結率^{※1} (%)

甲賀圏域	全体	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上
高度急性期	51.9	9.8	37.1	62.3	68.6
急性期	65.6	45.5	53.8	70.6	75.6
回復期	78		50.9	82.7	86.8
慢性期	72.8		29.3	83.3	83

滋賀県	全体	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上
高度急性期	59.4	11.4	49.3	69.9	73.2
急性期	73.8	43.4	62.7	79.6	82.9
回復期	66.2		46.2	70.1	72.4
慢性期	52.3		14.9	58.9	60

滋賀県地域医療構想より抜粋



にんじやえもん

市の介護保険認定者数は、平成28年3月末で4,065人であり年々増加しています。介護保険の新規申請要因は、平成25年・26年では認知症が15.5%と多い状況です。第2号被保険者^{※2}の要因は、脳血管疾患が一番多い状況です。

また、身体障害者手帳を保持している人は、4,342人であり肢体不自由の人が半分以上と多い状況です。療育手帳保持者は、947人であり、精神障害者保健福祉手帳保持者は、482人です。それぞれの障がい者手帳の保持者は、増加している傾向にあります。

他に貧困問題がある家庭やひきこもりなどで悩んでいる人も増えています。

住み慣れた地域で安心して自分らしく人生の最期まで暮らしていくために、子ども・障がい者・高齢者を含めた胎児期から死を迎えるまでのあらゆる市民を対象として、医療・介護及び保健・福祉が一体となり、「全世代型地域包括ケアシステム」を構築していくことが求められています。

市民がかかりつけ医・歯科医やかかりつけ薬局などを持ち、自分自身の健康管理をしていくとともに、地域ごとに個人から家族・地域を含めて包括的に支援していくことを目指していきます。



▲甲賀市の一部を上空から

※1 完結率…患者が自分の居住する医療圏域内の医療機関に受診(入院・外来)した割合

※2 第2号被保険者…介護保険法第9条の規定による、40~64歳までの方
(第1号被保険者…介護保険法第9条の規定による、65歳以上の方)

信楽のまちなみを見学



家々の生け垣は信楽焼きでつくられ、赤いゼラニウムが彩りを添えている。こんな小さなところまで手の込んだ信楽の町並みは住む人たちが自分たちの町を愛している証拠だと思う。(参加学生感想より)

国立病院機構紫香楽病院を訪問



重度心身障害児(者)の診療の特徴やコミュニケーションの方法などを説明いただき、各病棟を見学させていただきました。



交流会



講演は勉強になりました。いろいろな方とも交流することができました。皆さんの滋賀に対する熱い思いが伝わってきました。(参加学生感想より)

甲賀市立信楽中央病院を訪問



この地域では、慣れ親しんだ自宅での生活を続け、家族に囲まれて生きることを基本とし、病を抱えながらも生き生きと長生きできるように取り組まれていると感じました。(参加学生感想より)



病院の概要を伺い院内を見学後、月2回の出張診療が行われている山間部の朝宮出張診療所を見学させていただきました。



2班に分かれて、甲南病院、水口病院を見学

甲南病院を訪問



地域で医療に携わる上で、地域の歴史・文化を知ることが、そこで生活する人々を理解することに繋がるため、非常に大切なことであると教えていただきました。(参加学生感想より)

先進の医療とともに在宅支援体制の強化に取り組んでおられ、地域の特色を知ることが大切、とのお話が印象的でした。



水口病院を訪問



湖南省市 ～ 25日(木)



善水寺、甲賀流忍術屋敷を見学



湖南省市岩根にある湖東三山のひとつ岩根山国宝「善水寺」を訪問。ご住職から寺の由来などを聞き、本堂内を見学しました。



甲賀市甲南町にある甲賀流忍者甲賀五十三家筆頭格甲賀望月氏本家の旧宅を見学。忍者屋敷のからくりなどを体験しました。

中島先生からは、地域医療に必要な医師像も交えて、西田保健師からは具体的な統計をもとにご講演いただきました。

第1部 (講演)

『「信楽中央病院」の信楽地域における医療活動について』

甲賀市立信楽中央病院長

中島 恭二 先生

『甲賀市の地域医療・保健・福祉』

甲賀市健康福祉部健康推進課長

西田 薫 保健師

第2部 (懇談会)

訪問先の関係者の方々、地域の方々、里親の先生にご参加いただき和やかな交流の場となりました。

第3部 (学生同士の交流会)



学科や学年をこえて交流しました。

精神科の病院ということで、閉鎖的な病院をイメージしていましたが、水口病院は明るく開放的で、自分の中の精神科のイメージと全く違ったので驚きました。(参加学生感想より)

診察室での注意点や工夫された病棟の様子なども見せていただきました。先輩医師や看護師を

交えた質疑応答ではたくさんの質問がありました。



公立甲賀病院を訪問



公立甲賀病院は先生方やスタッフさんの雰囲気よかったです。開放的な作りの医局も見学させていただき、診療科にとらわれない連携ができそうだと思います。(参加学生感想より)



院内をゆっくりと時間をかけて見学させていただきました。懇談では研修医1年目の先輩医師や副看護部長を交えての質疑応答のお時間をいただきました。

医療生協こうせい駅前診療所を訪問



地域に必要とされる診療所づくりを会員の皆さんと一緒にすすめてこられたお話や、会員の代表の方から住民・患者としての医療生協とのかかわりについて伺いました。



食事会の中で、今抱える問題に対してまず地域の人たちと知り合いになろうというお話があり、地域に根ざしたコミュニティの強みを教えていただきました。(参加学生感想より)

16名の医学生・看護学生が参加しました。今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。ありがとうございました。

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 「地域は皆さんを待っています」

甲賀市立信楽中央病院 院長 中島 恭二



8月24日に病院見学の後、お茶で有名な朝宮の出張診療所を見学していただきました。こんな小屋のようなところで診療ができるのかと驚かれた学生さんも多かったのではないのでしょうか。実は設備のないところで診察するには五感を駆使した診察技術が要求されるのです。視診、聴診など昔の授業で習ったことの重さが実感できます。

その日の夕方には当院の活動を紹介する機会を頂き、地域医療の醍醐味を伝えるべく話をさせていただきました。40床と小さな病院ですが、救急医療、外来入院診療、保健事業、在宅医療など、地域でできることに幅広く対応を心がけています。なかでも外来は専門科を設けない総合診療外来を特徴としています。現在の医療には専門分化していく方向と、医療の原点である「病を診ずして人を診る」総合診療の二つの方向があるように思います。この二つの流れがいかに融合できるかが医療の質を高めるための課題だと思っています。研修に参加された医学生、看護学生の皆さんは将来自分の進むべき道について悩んでおられることと思います。専門科を究めるもよし、へき地で頑張るもまたよしです。大いに悩んでください。私も若いころは外科医としての技術を高めることに一生懸命でしたが、今は総合診療の面白さを味わっています。時間の関係で地域医療の大きな柱である在宅医療について現場を見ていただけなかったのが残念でした。



当院では将来の地域医療を担ってくれる若者を一人でも増やそうと高校生、医学生、研修医を積極的に受け入れています。いろんなことに興味のある若い時代に地域医療を経験することは将来どのような道を選

択するにしても必ず医療人としての糧になると信じています。一週間であれ、一か月であれ、いつでも研修は受け入れます。気軽にご相談下さい。



▲ 朝宮出張診療所見学の様子

最後に、講演で地域医療に求められる医師として紹介した「頭は理科系、体は体育会系、心は文科系」。我こそと思う方はぜひ地域で一緒に働きましょう。

■ 宿泊研修を受け入れて

水口病院 院長 **青木 治亮**



8月24日に夏の宿泊研修で多くの学生さんをお迎えしました。見学の途中で、とても印象に残る質問がありました。『精神科で一番大切なものは何ですか？』さてさて、何と答えたら良いものか……。その場では良い言葉が思いつきませんでしたので、この紙面をお借りして考えてみましょう。

何処にいても、欲しい物が何時でも手に入る。「速さ」という快適さを求め、そして実現してきました。医療において同じでしょう。むしろ、その「速さ」においては最先端を走っているのかも知れません。そんな中で「速く治すこと」を周囲から求められている患者さんが増えてきました。当然ながら同じことが私たちにも求められます。

昨今の医学の進歩により、早く治ることも事実です。しかし、それはヒトが豊かな生活を求めた結果であり、「速さ」を求めたことによるものではないのです。いつしか自分たちの夢や希望を叶える過程で、その目的が「速さ」だけを求めることに変わってしまい「何か大切なもの」を置き忘れてはいないでしょうか。勿論、医学の進歩を否定し前近代的な医療を是とするような極論を主張するつもりはありません。

しかし、治療に時間を要する病気やむしろ時間をかけることが必要な病気も存在します。もしかしたら治すことは事実上不可能なのかもしれません。でも、温かい食事を楽しんでもらい、暖かい茶飲み話に華を咲かせてもらう……そんなありふれた日常を提供するのも大切なはずですよ。

ところが実際はどうでしょうか。残念ながら、それらに十分な努力が注がれているとは思えません。確かにこれからも速く病気を治すことは求められてゆくでしょうし、そのことに異論はありません。ただ、時間が必要な場面ではゆっくりと時間をかけ、そのどちらにも心を配るバランスこそが『一番大切なもの』ではないでしょうか。



▲グループに分かれて院内見学



▲カリヨン時計台の前で

訪問先の皆様からのメッセージ

■ 宿泊研修を受け入れて

紫香楽病院 院長 **大野 雅樹**



当院にはお一人の医学科学生さんとお二人の看護学科学生さんが来られました。皆さん熱心に研修されていたとのことで、最後の面談でも、熱心さと、素直さと、好奇心あふれる様子が拝見でき、率直に「あー、いい学生さん達だな。」と思いました。そもそも、信楽焼き見学をさしおいて、当院に来られたということ自体が軽い感動で、私が学生だったら、果たして来ているかなー？です。

当院は重症心身障害児・者や神経難病の医療・療育をメインとしていて、ほとんど変化のない慢性疾患を診る病院という印象であるような気がします。しかし、スタッフ一同は、相手のわずかなサインから、症状の変化や感情を読み取るような、高度の洞察的な医療・療育を行っています。一方では、病院で過ごされる人生への様々な支援にも、懸命に取り組んでいる病院です。学生さんたちには、そのような空気を少しでも感じていただいていたら、と願っています。残念ながら、特に重心医療は現在の医学教育ではあまり触れられない分野でもあり、学生さんには魅力が判りにくい病院になっているのでは、という思いがあります。

また、当院では一般的な内科疾患、外科疾患、整形外科疾患、リウマチそして一般小児科も診療しています。いつでも見学に来てください。



■ 先輩からのメッセージ

■ 宿泊研修を受け入れて

公立甲賀病院 初期研修医 **大橋 瑞紀**
滋賀医科大学医学科36期生



甲賀では、どの職員さんも患者さんも、苦勞や不安を感じる日があるとは思うの

ですが、甲賀に住み、甲賀で働くことに対する誇りのような思いを、皆さん心の底に持っています。だからこそ、他所から来た我々研修医にも、とてもよくして下さいます。そんな温かい土地、病院であることを、少しでも感じていただければ嬉しいです。学生の皆さんにとっても、宿泊研修などに参加し、自分が居心地がよいと思えるのはどんな場所なのかを知ることは、価値があることだと思います。



先輩からのメッセージ

公立甲賀病院 初期研修医 **松本 悠吾**

滋賀医科大学医学科36期生



全国には様々な研修病院があるために、必ず自分に合った研修先が存在します。しかし、実際に働いてみて初めてその病院のことを知るというのも事実です。私にとって甲賀病院は、大学時代の多くの先輩が勤務される所であり、かねてからあらゆる情報を得てはいましたが、実際には身をもって経験することが大半であり、苦勞することも多々ありましたが、諸先輩方の助けにより日々充実した研修生活を送っています。学生のみなさんには、偏った考えではなく、柔軟な姿勢で研修先を決定されることを願います。

■ 交流会に参加して

湖南省健康福祉部社会福祉課 **脇田 留梨子**

滋賀医科大学看護学科11期生



宿泊研修の交流会に参加させていただきました。交流会では講演があり、私自身にとっても甲賀圏域の地域医療福祉について勉強になることが多くありました。そしてなにより、活発に意見交換や質問をされる後輩の皆様の積極的な姿勢がとても印象に残っています。さまざまな職種の方が携わっている実感と、直接お話することでより興味を持って考えることにつながると感じます。貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。

湖南省健康福祉部健康政策課 **岩橋 郁佳**

滋賀医科大学看護学科19期生



交流会に参加させていただき、学生のみなさまや医療に携わっている先輩方と交流を深める場として大変有意義な時間を過ごさせていただきました。学生、医師、看護師、保健師など様々な立場の者がそれぞれの思いや意見を出し合うことで、改めて、わたしはなぜ医療職を目指したのか、見つめなおすことができました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

湖南省健康福祉部健康政策課 **玉越 小百合**

学生さんと交流をさせていただく機会がなかなかないので、新鮮な気持ちで参加させていただきました。地域で生活する住民さんとは、長く付き合うことが多く、日々教えられることも多いです。保健師として学べることはたくさんあると思います。是非、また湖南省へ遊びに来てください。このような機会をいただいて、直接学生さんから話を聞くことで、私自身も学生時代の気持ちを思い出し、パワーをもらうことが出来ました。ありがとうございました。

■ 宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年 井上 愛美

今回初めて研修旅行に参加させていただきました。一人ではなかなか訪れる機会がなかった多くの場所に訪れられたことは、とても良い経験となりました。地域見学では自分の目と耳で甲賀、湖南の土地を知ることができ、病院見学ではたくさんの医師や看護師の方々にお話を伺うことができました。交流会においてもたくさんの先生方とお話させていただくことができました。里親研修ならではの貴重な経験をありがとうございました。



▲公立甲賀病院

滋賀医科大学 医学科第1学年 山内 結衣

素晴らしい宿泊研修を企画して下さいありがとうございます。

私立の単科病院や公立の総合病院、僻地の診療所など、様々な病院を見学できとても勉強になりました。また、医師の先生方や薬剤師さん、保健師さん、看護師さんなど、多くの方とお話することができ、刺激になるとともに、非常に良い経験となりました。

今回の研修を今後に生かしていきたいと思えます。

滋賀医科大学 医学科第3学年 坂井 有里枝

今回で4度目の研修旅行でした。

印象的だったのは、水口病院と公立甲賀病院です。

水口病院は精神科の単科病院ながらとても大きく、またゴージャスなフロアもあり、私が持っている精神科の病院のイメージが良い意味で壊されたように思います。

公立甲賀病院は先生方やスタッフさんの雰囲気よかったです。開放的な作りの医局も見学させていただき、診療科にとられない連携ができそうだと思います。

今回強く感じたのは、病院にもそれぞれ個性がある、ということです。それは機能性から来るものもあるでしょうが、どうもそれだけではないように思いました。

これからも多くの病院を見学し、自分の将来についても考えていきたいと感じました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 中山 景樹

今回の研修では、公立の病院でも、経営の問題と無縁でないこと、そして、病院の患者対応が、意外にも国の医療政策の影響をものに受けることが印象に残りました。これは「地方独立行政法人化できたら、画期的な試み」「診療報酬の関係で、退院までの期間や在宅復帰率等の目標値があるから、それを達成できるように頑張っている」などの説明が目立ったためです。これらのことから、一見、大きな裁量を持って働いているように思われる医療関係者も、実は多方面からの制限の下に置かれて、難しい状況にあるのかもしれないと感じました。

また、大規模な病院が、実は多くの専門家同士の連携を必要とする、複雑な職場との印象も残りました。大病院の医療機器や多種類の薬は、見るからに複雑で、それらを円滑に使いこなすには、職員同士の円滑なやりとりが欠かせないと想像したためです。こうした職場で働くうえで、自分にはまだ不足する部分も多いと感じるため、今後の大学生活の中で、改善できる部分は何とかすると共に、自分でもやれそうな職場を探してみるなどの努力が必要と感じました。

滋賀医科大学 医学科第4学年 牧野 愛

信楽の町には青の焼き物が至るところにある。シャガールの好きな青。ところどころにある塗りムラがシャガールの作ったステンドグラスに光がさしこんだときみたい。また家々の生け垣は信楽焼きでつくられ、赤いゼラニウムが彩りを添えている。こんなふうにならなくていい。小さなところまで手の込んだ信楽の町並みは住む人たちが自分たちの町を愛している証拠だと思う。今回の宿泊研修では滋賀県の方の郷土愛を多方面から感じた。ありがとうございました。



▲信楽中央病院朝宮出張診療所



▲水口病院

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第1学年 池野 茜

私は初めて宿泊研修に参加したのですが一泊二日という短い間でも観光や病院見学が盛り込まれており、滋賀県の魅力・医療などを深く知ることが出来ました。沢山の狸だけではなく幅広く焼き物が使用されているところや種類の異なる窯なども見られたので、まだまだ知らない文化があるのだなと感じました。他にもお寺や忍者屋敷にも行って満喫出来ました。さらに、出てくるごはんはどれもとても美味しかったです。そして、病院見学では病院ごとに特色があり患者さんに合わせた工夫がなされていました。診療所・病院の中を隅々まで見学させて頂ける機会はありませんのでとても良い経験となりました。夜には病院の方々との交流会・学生同士の交流会が用意されているので質問ができ、お互いをよく知る貴重な時間となりました。この宿泊研修は本当に学びの多い贅沢で貴重な体験でした。ぜひ次回も参加したいなと思っています。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 丸山 晃帆

私は、今回初めて里親宿泊研修に参加させてもらいました。診療所や病院を見学させてもらうことで、甲賀、湖南地域の特色や地域医療がどのようなものなのか学ぶことができました。

特に、水口病院の見学が印象に残っています。精神科の病院ということで、閉鎖的な病院をイメージしていましたが、水口病院は明るく開放的で、自分の中の精神科のイメージと全く違ったので驚きました。

今後も里親宿泊研修に参加して、滋賀県のいろいろな地域の特色や医療について知ってみたいです。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 辰巳 恵理

宿泊研修では二日間という短い期間ではありましたが、病院見学から滋賀の郷土の事、学生同士の交流までとても密度の高い時間を過ごすことができました。

あわただしい二日間ではありましたが、将来自分がどのような道をめざすのか、探していくための大事な情報をたくさんいただけたと思っています。ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第2学年 若森 万悠

今回初めて宿泊研修に参加させていただきました。まず地域の特色を知るといふ小さな目標をもち研修に臨みました。観光中に訪れた忍者屋敷や信楽焼きの窯元は歴史を知ることに関心深く、別の機会を設けて楽しみたい場所ばかりでした。

一方で甲賀市全体は山あいの地域であり、一部の地域を除いて、過疎みである地域が広く或ることを教えていただきました。加えて高齢率が高く人口も減少している現状から、私が住んでいる地域の数十年先を映しているのではないかと考えました。

食事会の中で、今抱える問題に対してまずは地域の人たちと知り合いになろうというお話があり、地域に根差したコミュニティの強みを教えていただきました。数十年先に私の住む地域で医療や介護など社会資源に関する問題を、地域の人々と一緒に活動し、解決できたら、と思いました。この研修でさまざまな方々と縁がありお話することができ、とても感謝しています。二日間ありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第3学年 浅沼 莉衣

私は今回、初めて宿泊研修に参加させて頂きました。私は甲賀市出身で、甲賀市のことについてはよく知っているつもりでした。しかし、今回の宿泊研修を通して、知らなかったことがたくさんあったことを知りました。まさに、灯台下暗しだなと思います。

研修では、甲賀市・湖南市の病院に行かせて頂いたり、文化に触れたり、地域の方との交流によって、改めて甲賀市・湖南市の良さを知ることができたと思います。

とても充実した2日間でした。

このような機会を設けていただきありがとうございました。



▲医療生協こうせい駅前診療所



▲紫香楽病院

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科第1学年 竹中 愛海

私は今回の見学と交流会を通して、それぞれの施設が担う役割とそこで働く方々の甲賀市の医療をずっと支えていきたいという強い思いを知ることができ、とても貴重な経験だったと感じています。

この地域では、慣れ親しんだ自宅での生活を続け、家族に囲まれて生きることを基本とし、病を抱えながらも生き生きと長生きできるように取り組まれていると感じました。

また、近所の人々のつながりが固く親密であるからこそ、その人をよく知った上での医療が提供されているため、一人ひとりが納得いく医療を受けられるように感じました。

参加した事で、今後さらに意欲的に何でも吸収していかなければならないという思いが強くなりました。貴重な体験をありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 村木 まひろ

今回初めて里親の宿泊研修に参加させて頂いたのですが、地域の病院が連携して医療に取り組んでいることがよく分かりました。

訪問診療においても、全てを大病院が行うのではなく最初は個人病院のかかりつけ医が診て、その後診きれない部分だけを大病院が診るというシステムがしっかりと確立されているなど思いました。

大学病院では学べないことをたくさん見たり聞いたりすることが出来、次回もぜひ参加したいと思います。

滋賀医科大学 看護学科第1学年 服部 友里亜

今回の宿泊研修では、いろいろな病院を見学させていただいたり、観光ができたりと、とても有意義な2日間となりました。ご飯もとてもおいしく、すごく豪華でした。どの施設の方々も、私たちのことを温かく受け入れてくださり、とても嬉しかったです。また、1日目の夜のホテルでの講演は勉強になりました。いろいろな方とも交流することができました。皆さんの滋賀に対する熱い思いが伝わってきました。大学の医学科の方や他学年の方など、普段話す機会が少ない方とも話したりできたので良かったです。今回の参加が初めてだったのですが、これからも参加したいな、と思っています。ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第3学年 木内 亮平

甲賀市・湖南市は、距離としては滋賀医科大学からそこまで離れておらず、車があれば一時間程で十分行くことができる身近な場所であるが、あまり行く機会がなく、今回の宿泊研修で訪問することができてよかったです。信楽町では滋賀が誇る信楽焼を実際に制作しておられる現場を間近に目にすることができました。そして私は今回の研修で、信楽中央病院・甲南病院・公立甲賀病院・こうせい駅前診療所を見学させていただきました。地域で医療に携わる上で、地域の歴史・文化を知ることは、そこで生活する人々を理解することに繋がるため、非常に大切なことであると教えていただきました。医療に関することを学ぶのはもちろんのこと、地域にある様々な物事に目を向けていくことが必要だと感じました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 松藤 忠和

滋賀医大での日常は大半が座学で、特に今までは一般教養課程だったので、医学や病院について接する場面はあまり無かったのですが、今回の宿泊研修で公立甲賀病院など色々な病院を見学させていただき、また懇親会でも色々な医療関係の方々のお話を聞いて、自分の進む道を再認識できました。これから専門課程に入り、基礎医学を学んでいきます。良い医師になれるように頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。



▲甲南病院

～甲賀市信楽町 焼物とお茶の生産が盛んな高原の町～

甲賀市信楽町は滋賀県の最南端に位置し、三重県や京都府に隣接する焼物とお茶の生産が盛んな高原の町です。

信楽焼は伝統的な技術技法によって支え、伝えられている焼物で、瀬戸、常滑、越前、丹波、備前とともに日本六古窯のひとつに数えられています。

信楽といえば狸の置物を思い浮かべられる方が多いのですが、全国的に知られるようになったのは、昭和26年に旗を持たせた狸の置物をすらいと並べて天皇をお迎えしたところ、天皇が歌を詠まれたことから、以来、福を呼ぶ縁起物として信楽焼＝狸の置物が定着しました。

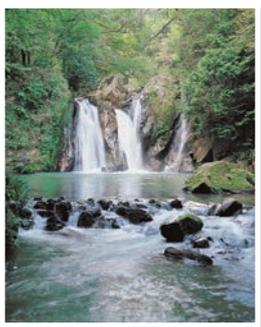
現在では暮らしの器、置物、花器など様々な作品が創られる中で、若手作家による感性が加わり、新しい作風が生まれています。信楽駅前では5メートルを超える大狸の公衆電話BOXがにっこりと出迎えてくれます。



トンネルから望む MIHO MUSEUM



史跡紫香楽宮跡

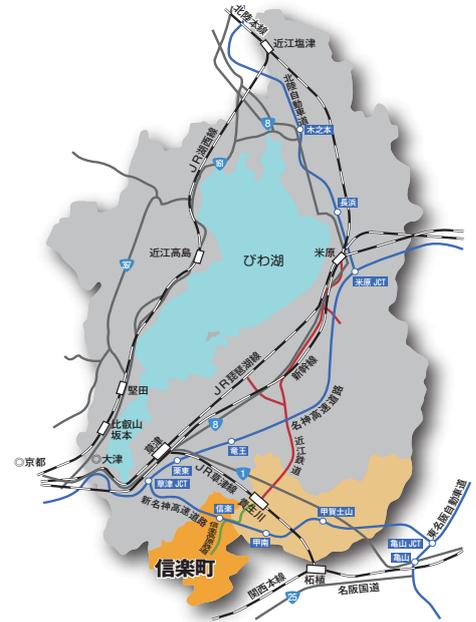


田代川・三筋の滝



信楽は急ぎ足でまわるのはもったいない。ゆっくり、のんびり楽しんでくださいね。

文：信楽町観光協会 事務局長 平岡 利康
お問い合わせ：信楽町観光協会 TEL 0748-82-2345 FAX 0748-82-2551



信楽駅前の大狸公衆電話BOX



畑のしだれ桜

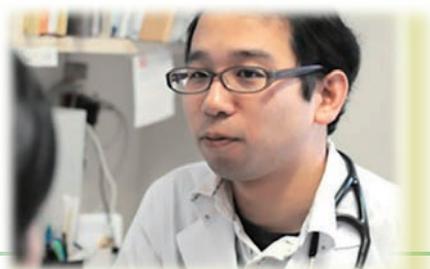


窯元散策路 (大釜)

Interview

医療生協 こうせい駅前診療所

所長 佐々木 隆史
(滋賀医科大学医学部医学科23期生)



〈学生時代の話〉

1997年に滋賀医科大学に入学してもう20年近くが経ちました。滋賀医科大学を選んだ理由はあまり覚えていませんが、とんでもなく良い選択をしたと思っています。一浪で入学した学生時代は経験の嵐でした。クラブ・バンド運営等で学んだことの多くが、今のリーダーシップ等に役立っています。振り返るともう少し授業を聴いていたら良かったと思います。今と時代が違うかもしれませんが、おおらかに学ばせてもらったと思います。旅行が好きだったので、国内外をいろいろ飛び回り、多様性を知ることも出来ました。



▲学園祭水上ステージ (2002年)

〈卒業時の悩み〉

当時初期研修医制度はなく、卒業と同時に自分の専門を決めなくてはなりません。入学当時から漠然と「診療所で働きたい」というイメージを持っていたので、とてもマイナーな「総合内科」的なものか、循環器内科で悩みました。教授にも相談しました。結局は初志貫徹で総合内科を選び、当時としては珍しい3年間の内科中心のスーパーローテートを行っていた京都民医連中央病院で研修を始めました。



▲学生時代、パキスタン ペシャワールにて

〈家庭医療学との出会い〉

研修医時代は、目の前の患者に精一杯の毎日でした。医学という学問を、目の前の患者さんに応用するという日々です。ある日、Family Medicineなるものを海外で勉強している先生が同法人にいらっしゃることを知りました。「家庭医療」というらしい。幸い、私の指導医の先生も家庭医療に興味を持たれていたため、みんなで勉強会を始めました、それが今の京都家庭医療学センターの前身です。患者さんの医学的な側面だけでなく、心理的問題や社会的背景、家族・地域も視野に入れて、臨床に応用するという、目から鱗の学問でし

た。診療所研修もその家庭医の先生の前で学ばせてもらい、より興味を深め、セミナー等に参加し学びを深めました。「若手家庭医のための冬期セミナー」のスタッフに2年間関わらせてもらい、全国の若い家庭医を目指している先生や、それを暖かく支えてくれる多くの指導医の先生に出会うことが出来、進む道に確信を得ました。また在宅専門診療所や緩和ケア病棟でも研修させてもらいました。様々な知識・技術も獲得しましたが「QOLを超えるリスクはない」など如何に患者さんを支えるかと態度領域の学びも多かったです。



▲京都家庭医療学センター設立集会

〈病の上流 (Upstream) の方もみつめて〉

診療所をつくるという機会に恵まれました。医療生協という生協法に基づいて地域の人々と一緒に作る診療所です。地域の人々がどんな診療所を望んでいるのか、地域の人と語り合い、診療所のミッションを共に作る過程で、「健康」「生きること」とは？に向き合う機会が多くなりました。現在、外来診療では患者さんの「健康」に向き合い・共に考え・支援しています。訪問診療ではその人の最期の時間を如何にその人らしく過ごし、QOLを高めるかを多職種で支えています。また講演会や健康教室、地域の祭りなどに出向き、住民・地域としての「健康」を高めることを支える活動を行っています。患者さんの、地域住民の健康・QOLを考えて、それがどうしたら実現しやすくなるかを考えつつも、健康の社会的決定要因にも注目して、地域の人が大病になってから治すだけでなく、どのようにその病因を減らしていくか、病いの上流の方もみつめて解決策を模索しています。医師や医療職だけでなく多くの人に支えられながらも日々の診療を行っています。

▲こうせい駅前診療所開所式 (2013年)
中央に湖南省市長と甲賀湖南医師会長

〈学生さんへのメッセージ〉

脇目を振らず医学部に入学した方は、ぜひ脇目をしていろいろ経験してください。そして、自分の初心を大切にしつつ、「医療とは何か」を考え、自分の考えに「何故」の自問を繰り返してください。なによりも、出会う人々・地域との繋がりを大切にしてください、いずれあなたにとって大きな支えになるでしょう。

▲プライマリ・ケア連合学会
多職種キャリアアップ研究会
前列左から滋賀医科大学家庭医療学講座 松村教授、弓削メディカルクリニック 雨森先生、永源寺診療所 花戸先生

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

病院の概要

開設者：公益財団法人 近江兄弟社 理事長 三ツ浪 健一

院長：周防 正史

病床数：168床

診療科目：内科、神経内科、外科、呼吸器外科、整形外科、
リハビリテーション科、呼吸器科、消化器科、
循環器科、こころ科、麻酔科



院長メッセージ



院長：周防 正史

1918年、当時国民病であった結核治療を目的とし、W. M. ヴォーリスが、「近江療養院」として開設しました。結核病棟は2000年に閉鎖しましたが、地域における在宅療養の中心的病院としての機能を充実させてきました。

当院は、急性期、慢性期、回復期、緩和ケアのケアミックス病院です。2006年に緩和ケア病棟、2009年には回復期リハビリ病棟開設、癌の終末期だけではなく、高齢者の在宅復帰に力を入れてきました。2015年在宅療養支援病院1取得。1997年に併設した訪問看護ステーションと地域医療の充実を目標として活動しています。

2025～2030年にかけて、後期高齢者がピークに達します。国を挙げて在宅療養を推進しています。急性期病院は、在院日数がより短くなります。長い入院が決めて患者さんのためになるとは思いませんが、後期高齢者を在宅に帰すためには、多くの準備や、在宅療養を受け入れる家人の決断が必要です。彼らをサポートするためには、患者さんの急変時の受け入れ、癌を含めた終末期の対応、急性期病院で治療された後の回復期・リハビリ対応、レスパイト入院など、あらゆる対応が可能な病院であり続けなければなりません。

医学生、看護学生の皆さん、2025年以後の地域医療のあるべき姿を、どのような思いで見たいですか。後期高齢者が人口の25%以上を占める未曾有の社会が到来します。誰もまだ答えを出せない、でもその時代はすでに始まっています。一緒に考えること、現場で結果を出すことが、大切なことです。

理事長メッセージ



理事長：三ツ浪 健一

当院は、在宅療養支援病院として、在宅療養中の患者さんとその家族の支援に力を入れています。在宅療養支援病院は、24時間体制で患者からの連絡を受け付け、24時間体制で往診・訪問看護を行い、必要なときにはいつでも緊急入院を受け入れることにより、24時間365日体制で地域の在宅医療を支える病院です。当院では現在4人の常勤医師により、一月当たり平均、約30回の訪問診療、約2回の緊急往診、約4人の在宅からの緊急入院受け入れ、約1人の在宅看取りを行っています。在宅療養支援病院としては、訪問診療についてはより重症の在宅療養患者を担当し、他の医療機関からを含めて入院治療が

必要な在宅療養患者の入院診療に主力を注ぎ、効率的な治療とリハビリテーションを行って在宅復帰を目指すことにより、地域包括ケアの要となることが重要と考えています。そのような現場を一度是非見に来てください。

ホスピス希望館

医師 奥野 貴史

私がホスピス医を目指して当院で研修をはじめて2年になります。ホスピスでの研修をはじめたことだらけでした。医師、看護師をはじめ多職種で朝のカンファレンスをする。患者さんを診察する際、医師が白衣を着ないこと。でも最たることは、お部屋に椅子を持参し、その椅子に座って患者さんと同じ目線の高さで診察をすること、でした。患者さんの真の叫びが聞こえてくる感じでした。

ホスピスは「人間としての尊厳を保って生を全うするのを援助することを第一の目標としている」と、淀川キリスト教病院、柏木哲夫先生は書いています。ホスピスケアに興味がある方、ぜひ一度見学にきてください。ホスピスケアとは何かということをお伝えできれば、と思っています。

細井医師と患者さん▶



看護部メッセージ

看護部長 岡田 幸子

ヴォーリス記念病院は、在宅支援病院として急性期・回復期・慢性期・終末期機能を持つ地域に根ざした医療・看護を提供しています。その中でチームケアのキーパーソンとして看護部は「私たちは、その人らしさを大切に、全人的な看護・介護を提供します」を理念に掲げ、対象者が生きてきた環境やその人の価値観を大切に、病気や障害を抱えながらも、その人が望む場所で「その人らしく」生き抜くことを支援しています。

看護部教育理念は「社会・医療情勢の変化に合わせ、地域ニーズに応じた看護が提供できる看護師育成を目指す」とし、クリニカルラダーと人事制度の中で個人のキャリア支援を図っています。又、社会動向に合わせ、地域ニーズに対応できる看護師育成を行っています。

W・Mヴォーリスは「自分の持つ力を十分に活かせ」という言葉を残しています。創業者である、W・Mヴォーリスの意思を受け継ぐ看護を提供できるよう看護部一同で看護実践していきます。これからの時代に必要な機能を持つ当院で共に看護実践してみませんか。



『在宅サービス部門』の紹介

部門長 ^{むこう} 向 美保

当部門は、訪問看護・訪問介護・居宅介護の3事業から成り、総勢45名のスタッフで運営しております。東近江圏域では、大規模の在宅サービス部門になってきており、医療依存度の高い方や認知症・難病や障がい児・者の数も多く、近年では在宅看取り数も増えております。5名の主任ケアマネが揃う居宅、痰の吸引等の手技取得者が4名所属する訪問介護、訪問看護は看護師が20名で県内初「機能強化型Ⅰ」を算定しています。また、新たに来春開設予定の『看護小規模多機能型居宅介護 友愛の家 ヴォーリス』を4事業目として、現在準備を進めています。今後も地域の皆様のニーズにより応えていけるよう「その人らしい生活」に寄り添っていきたく思います。ぜひ、見学に来てください！



回復期リハビリテーション病棟の紹介

リハビリテーション科 科長 酒井 英志

当院の回復期リハビリテーション病棟（42床）は、2009年8月に開設し、今年で7年目を迎えました。急性期治療を終えた脳梗塞等の脳血管疾患、大腿骨近位部骨折等の運動器疾患の患者さんの在宅復帰が早期にできるように、約50名のセラピストが365日集中的なリハビリテーションを実施しております。病棟では、退院後の生活にむけた日常生活行動の支援を、チーム全体で取り組んでいます。

多くの患者さんが365日、最大3時間のリハビリをそれぞれの目標に向かって頑張っておられます。大切なことは、目標があって、それに向かえる状況にあることと考えております。心と身体は双方向性で影響を与え合うものであることを痛感する毎日ですが、多くの窓から陽光が部屋いっぱい広がる、明るく開放的なリハビリテーションセンターの空間で、心と身体の改善が提供できるようスタッフ一同努力していく所存でございます。



公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町492

TEL : 0748-32-5211(代) FAX : 0748-32-2152 <http://www.vories.or.jp/>

長浜いきいき健康フェスティバル 2016 「まちのお医者さんと医療系学生の健康相談会」を出店

浅井東診療所 所長 松井 善典

今年も5月22日に開催された長浜市の健康フェスに「まちのお医者さんと医療系学生の健康相談会」を出店してきました。例年多くの医学生と一緒に市民の健康相談に乗ってきましたが、今年は看護学生が多めでした。大学としては滋賀医大の学生を中心に、北は福井大学、南は徳島大学からの医学生・医療系学生が10名ほど参加して、前日の準備ワークショップと当日の健康相談に臨みました。

前日は「相談の乗り方」の準備ワークショップです。身近な事例を題材に相互にロールプレイを行い、3名の家庭医療指導医の指導の下、コミュニケーションの工夫や配慮について深く学ぶことができました。その後は長浜の町家を改装した素敵なお店で前夜祭。大学や職種を超えた交流ができました。

当日はいよいよ緊張の相談会です。朝一番から相談ブースが埋まり、常に待ちが出来るほどの盛況でした。当日は長浜出身の研修医や医師の先生も指導役に駆けつけ、フル回転でした。「今こういう状態だが受診したほうがよいか?」「通院していて、こういう状況なのだが主治医に相談できず困っている。どうしたらよいか?」「〇〇という症状があって不安なのだが、これからどうなるのか?」などなど、多岐にわたる相談・心配事が持ち込まれました。

時には涙する方、時には30分以上も話し込む方、友人や家族で同時に来られる方、様々な状況にも学生の皆さんは丁寧に話を聞き、何が相談の本質なのか?相談に来た背景には何があるのか?を探索しながらの傾聴がしっかりできていました。その後、指導する側も、普段の医療現場では耳にし難い・話されにくい相談事に少し圧倒されつつ、適切な助言や支援に至れるように配慮のある対応を学生と一緒に行いました。

終わったときは皆ぐったり。事後の振り返りでは貴重な経験と学び、その中で気づきや成長が互いに共有され、大きな充実感も味わえました。地域の現場で学ぶことの重要性があちこちで指摘されていますが、この健康フェスでの相談会は非常に大きな成長する場と今年も思いました。仲間と予め準備をすること、市民の生の相談を受ける貴重な経験を積めること、それを指導医のガイドで対応できることは最高のカリキュラムだと思っています。

湖北医師会・NPO滋賀医療人育成協力機構の皆様、ご協力いただいた皆様にこのような場を支援していただき感謝しております。ありがとうございました!これを読んだ学生のあなた、是非来年の参加をお待ちしています!!



▲前日、ワークショップの様子



▲当日は今年も大盛況でした

参加学生の声

2年連続で参加させていただきました。昨年は、相談者さんがご自身で抱えられる健康上の悩みを次々と勢い良く話してこられる様子を圧倒されてしまい、それらを必死で聞き留めて、何とか先生方へお繋ぎするのが精一杯でした。今年も、相談者さんのお話の裏に隠された真の問題に迫る、との明確な目標をもって臨んだおかげで、そのことができずに昨年感じたもやもやをひとまず乗り越えることができたかなと思います。

1年ごとに、自身の現状に応じて、同じ健康相談会でもそれぞれ異なった経験ができるので、来年もぜひ参加させていただき、また新たな経験ができればと考えています。

開催報告

がん征圧・患者支援チャリティーイベント 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016滋賀医科大学」を実施して

リレーフォーライフ滋賀医科大学実行委員 高石 亮太
(滋賀医科大学 医学科第4学年)

この度、日本で初めて、学生が主催するリレーフォーライフが滋賀医科大学で開催されました。実行委員長の西さんの強力なリーダーシップのもと、滋賀医科大学と滋賀県立大学の学生総勢30人が集まり、準備を進めてきました。日本で初めてのカレッジリレーということで、学生が主催するとはどういうことか、どのようなリレーフォーライフを目指せばよいのか、というのは、常に自分に問い続けてきたことであり、それは他の実行委員も同じであったと思います。また、僕は涉外チームのリーダーだったのですが、慣れない仕事の中で、自分のやっていることはこれで合っているのだろうかという思いもまた常にありました。あるとき、参加のご案内のために伺った病院で、がん患者さんから、非常に厳しいお叱りの言葉をいただいたことがありました。そのとき、僕は、学生がリレーフォーライフを開催するなんて、僕たち自身の自己満足ではないか、自分たちががん患者さんのために何かできるなんて、思い上がりじゃないか、などとマイナスなことばかり考えてしまいました。実際、よその実行委員はどれも、サバイバーさんやケアギバーさんが中心になって



▲実行委員の皆さん

いるのに対して、僕たちのほとんどは、これまで癌とは無縁に生きてきた者ばかりです。本当の意味で、がん患者さんの痛みや苦しみはわからないのかもしれませんが。しかしお叱りの言葉をいただくと同時に、たくさんの激励のお言葉、エールもいただきました。前年度までのリレーフォーライフしがの実行委員さんから、自分たちが楽しくできればそれでいいんだよ、という言葉をかけていただいた時、とても気持ちが楽になりました。本当の意味で癌の辛さはわからないけれど、そこに寄り添うことはできると確信しました。リレーフォーライフの3つの基本理念—celebrate, remember, fight back—を尊重しながら、



▲参加者全員でファイナルラップ

リレーフォーライフがサバイバーさんやケアギバーさんにとって少しでも癒しや笑顔や勇気を受け取れる場になってほしいという思いで、開催に臨みました。

大盛況のもと、リレーフォーライフを終えることができたのは、ひとえに西実行委員長のリーダーシップと、多くの方々のご支援のおかげだと思っています。ご参加いただいたサバイバーさん、ケアギバーさん含め、支えていただいた多くの皆様に、心からの感謝を申し上げます。



▲閉会式後の記念撮影



◀対がん協会報第642号
開催の様子が掲載されました

『家庭医体験学習』のご案内

滋賀医療人育成協力機構では、滋賀県内の各地域で働いている家庭医の仕事を体験する「家庭医体験学習」に取り組んでいます。今まで大学病院だけでは、なかなかイメージすることのできなかった「家庭医」という医師像を、少しでも具体化することに役立てばと願っています。

参加対象者は、地域医療に興味のある医学生で、研修施設において1日以上、体験学習を行います。詳しくは、事務局までお問い合わせください。

参加学生の声

滋賀医科大学 医学科第2学年 井手 菜月 (2016.9 浅井東診療所)

学習中、美しい山々に囲まれ心洗われる思いでした。往診を中心に学習させていただくことで、患者さんと患者さんを取り巻く環境についても勉強することができました。先生方や看護師さん、スタッフの皆さまがとても優しくご指導くださり、嬉しかったです。また、患者さんからもその地の歴史やご職業のお話も伺うことができました。この学習で学んだことを励みに、一生懸命努力していきたいです。そして、また、学習に行かせていただくことができれば幸いです。ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第1学年 山崎 智加 (2016.9 浅井東診療所)

家庭医の家庭や施設への訪問診療や外来、薬局の仕事とさまざまな働きを見せてもらい、自分の目指すところがわかったように思います。

外来では診察時間が長く丁寧だと感じました。振り返りの時間にそう感じたことを話すと、診察時間を計算され、実際の時間はそんなに長くなかったことがわかりました。「長いのは患者さんが話す時間」だと話され、自分がいかに医学的な知識を持っていても、患者さんの訴えをよく聞くことが大切なのだと教わりました。

患者さんの家族との今後の方針の話し合いの場にも同席させてもらいました。そのときの相手の話を引き出されていく様子は特に印象深かったです。

家庭医としての心がけ、態度、患者さんとの関わりや薬剤師さんの働きなど、多くのことを学ばせてもらった非常に有意義な体験学習だったと感じています。

受賞報告

滋賀医科大学学生サークルTukTukが 学生表彰を受賞しました

滋賀県健康医療福祉部から滋賀医療人育成協力機構が業務委託を受け、TukTukのメンバーが作成した在宅医療冊子「滋賀県での在宅医療の始め方～学生の突撃インタビュー～」が高く評価されました。

滋賀医科大学学園祭「若鮎祭」での表彰式の様子▶



▲表紙
「滋賀県での在宅医療の始め方
～学生の突撃インタビュー～」

開催報告

第8回「卒業後の自分を考える」連続自主講座 『災害と救急医療～救命のために～』を開催しました。

学生の皆さんが、医師や看護師としての自分の将来像を探すことを応援する「卒業後の自分を考える」連続自主講座を、11月4日に滋賀医科大学クリエイティブモチベーションセンターにおいて開催しました。今回は4人の講師をお迎えし、お話を聞かせていただきました。



「世界標準治療を超えて」

江口 豊 先生（滋賀医科大学救急集中治療医学講座教授、滋賀医科大学医学科2期生）からは、2010年に心肺蘇生法の国際ガイドラインが改定され、心肺停止患者に対する人工心肺装置の活用、緊急冠動脈形成術や脳低温療法の施行が社会復帰に繋がると示唆されましたが、救急集中治療医学講座では、以前から人工心肺装置装着や脳低温療法を積極的に導入し、世界のガイドラインの推奨度を超えた先進的治療を行っています。

医師はガイドラインを遵守し診療に当たることはもちろん大切ですが、医学の進歩のためにガイドラインを作成する医師になろうという気構えも持ってほしい、と思います。



「災害への備え～災害の現場から～」

田畑 貴久 先生（滋賀医科大学医学部附属病院 救急・集中治療部副部長、滋賀医科大学医学科13期生）からは、外科医として診療を行っていたのですが、外科診療で扱う外傷の手術・処置の方が自分には合っていると思い、救急集中治療の道に進むようになりました。

現在は滋賀医科大学で日常勤務をしながら、滋賀医科大学DMAT隊員として活動し、災害現場で、DMATとして活動できる環境を整備したり、大学内で災害医療に対応できる人材の育成・体制の構築に努めています。

「チーム医療の要～メディカルスタッフの立場から～」

飯島 圭 氏（滋賀医科大学施設課電気係主任）からは、平時は滋賀医科大学施設課電気係員として勤務されていますが、災害時「滋賀医科大学DMAT」への出動命令が出た際には、業務調整員として災害地に赴き活動されている様子をDVDにまとめお話をいただきました。

武村 佳奈子 看護師（滋賀医科大学医学部附属病院 看護部2C副看護師長）からは、現在は2C病棟に勤務していますが、就職当初の勤務はICUで5年間お世話になりました。



そこで江口先生に出会い、救急医療に興味を持ち2009年には「救急看護認定看護師」になり、現在は大学院で学んでいます。

現在「滋賀医科大学DMAT」には、医師6名、看護師11名、業務調整員4名の隊員がおり、災害時には1チーム5名で活動します。東日本大震災では、花巻空港のSCUでトリアージ、応急処置などの活動をしました、とのことがありました。

最後に学生さんから色々な質問があり丁寧に回答いただいた中、特に印象に残ったのは、講師の皆様が口をそろえて、「自分だけの力では何もできません、皆のチーム力が必要です。」と謙虚に語ってくださったこと。

「医師・看護師など人の命に係わる仕事に携わるといふことに腹をくくれ！」というお言葉。

「卒業後、どの科に進むかは自分の一番好きな事で選ばよ。進む道はおのずと開けて来ます。私達も外科医を目指していたが、現在は救急治療の道を進んでいます。」

学生の皆さんの心にずっとと刻まれるお言葉をいただき有難うございました。



滋賀医科大学男女共同参画推進室

滋賀医科大学では、男女共同参画推進室を設置し、仕事と家庭を両立するためのさまざまな取り組みを実施することにより、子育て中の女性医師をはじめ教職員のみなさまにとって働きやすい環境づくりに努めています。

相談制度

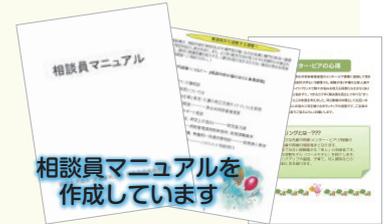
男女共同参画推進の視点にたつて、子育て・介護、キャリアサポート（研究助成、研修）相談等を受け付け（予約制）、支援しています。



■ 相談受付件数

平成24年度	9件
平成25年度	10件
平成26年度	6件
平成27年度	2件
平成28年度	8件

（平成28年11月1日現在）



※専門医取得などの医師のキャリア形成支援に関する相談、結婚・子育て等により臨床現場を離れている女性医師の就業支援等に関する相談は、**滋賀県医師キャリアサポートセンター（右ページ）**までご相談ください。

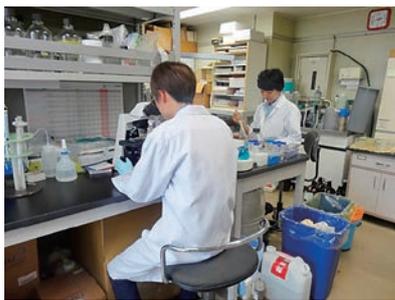
滋賀医科大学研究者のための支援員配置

この制度は、出産・育児・介護等に直面して研究時間の確保が困難となった研究者に「研究支援員」を配置し、研究の継続を支援することにより、本学の研究者の研究意欲向上を図ることを目的としています。

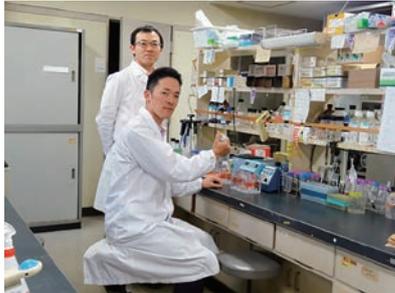
毎年、前期（4月～9月）・後期（10月～3月）の2回に分けて募集し、実施しています。

平成28年10月から平成29年3月まで、13名（男性：5名、女性8名）の研究者がこの制度を利用しています。

研究室にお邪魔しました

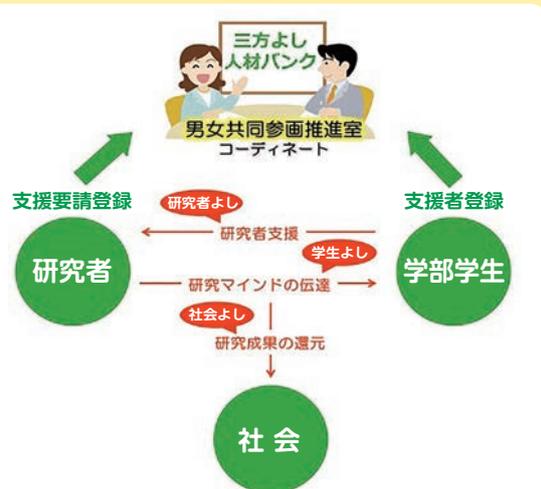


実験補助を依頼されています。
研究者と支援員の信頼関係はバッチリです!!



関連事業

三方よし人材バンク



子育て・介護中の研究者のニーズに合わせた研究支援員を迅速に派遣するため、「研究者よし」、「学生よし」、「社会よし」となる「三方よし人材バンク」を設立し、本学学部学生の登録を促進しています。

TEL:077-548-3599 FAX:077-548-3653 Email:hqdanjo@belle.shiga-med.ac.jp

滋賀県医師キャリアサポートセンター (滋賀県地域医療支援センター)

当センターは滋賀県健康医療福祉部健康医療課と滋賀医科大学医学部附属病院に設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置しています。

先輩医師との懇談会の様子

- 第1回 ● 平成28年7月5日(火) 17:30～
講師：高橋 健太郎 特任教授
(総合周産期母子医療センター、女性診療科)
テーマ：「私の履歴書－乱学事始め～懈怠心緒－」



● 通常の講義ではなかなか聞く事のできない人生のポイントなどを聞くことができ、参考になりました。
● 幅を広げた見方をすれば、通常の範囲とは違う場で貢献できるのだなと気づかされました。

- 第2回 ● 平成28年10月4日(火) 18:00～
講師：山本 正仁先生
(長浜赤十字病院 第一小児科副部長)
テーマ：「滋賀県の赤ちゃんを助けるために」



● 本音や実状に対して、先生の率直なご意見を伺えたので、今後のキャリアプランを考えるにあたって、とても参考になりました。
● 自分一人で先生を探してお話しを伺いに行くのはハードルが高いため、このような機会を設けていただけて嬉しいです。

滋賀県女性医師交流会

- テーマ 古くて新しい「当直」問題
- 日時 平成29年2月18日(土) 午後2:30～5:30
- 会場 市民交流プラザ(フェリエ南草津5階大会議室)
- 参加対象 女性医師、男性医師、病院関係者、医学生など
- 主催 滋賀県女性医師ネットワーク会議
- 申込先 滋賀県医師キャリアサポートセンター



● 自動車、自転車でお越しの際は市営駐車場をご利用ください。
自動車(4時間まで)、自転車(1日)は市民交流プラザ事務所(5階)で処理をしてもらえば無料です。

キャリアサポートセンターでの取り組み

- 県内医療機関に就業を希望する医師・医学生への意向確認の面談
- 県内の医師数実態調査に基づく、医師不足病院の把握・分析
- 医師・医学生を対象とする懇談会、講座等の開催
- センターのホームページの設置、運営、管理
- センター業務に係る情報発信
- 県内医療機関に就業を希望する医師や従事している医師からの相談の対応
- 継続就業や職場復帰等を希望する女性医師からの相談への対応
- 滋賀県女性医師ネットワーク会議(滋賀県女性医師交流会)の運営

【お問い合わせ先】

滋賀県医師キャリアサポートセンター
事務担当・相談窓：滋賀医科大学病院管理課
住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
TEL：077-548-3656
E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp
(女医相談) joisodan@belle.shiga-med.ac.jp



入会・ご寄附のご案内

平成28年度の活動を実施していくための年間必要経費は、540万円程度と計画しています。この経費を皆様からの会費とご寄附並びに滋賀県からの「地域医療を担う医師等育成事業補助金」で賄っています。

昨年度は、会費423,000円、賛助会費73,000円、寄附金2,173,170円、補助金2,000,000円、合計4,669,170円を頂戴し、経費の足りない分約100万円は昨年度からの繰越金を使用しました。

平成28年度への繰越金残額は2,009,923円です。

このままでは、あと1~2年後には活動資金が足らなくなる現状をご理解いただき、出費がかさむ折とは存じますが、「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会費		入会金(初年度のみ)
正会員	個人	年会費 2,000円	+ 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円	+ 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上	できましたら 3,000円以上	

ご寄附は

ご寄附いただく金額は決まっておりませんが、できましたら3,000円以上をお願いします。

入会・寄附に関するお問い合わせは、機構事務局(077-548-2802)にご連絡ください。

めでる誌上に、貴病院や企業からのメッセージを載せませんか！

ご希望の方は、滋賀医療人育成協力機構にお問い合わせください。

編集後記



年の瀬を迎え、慌しく感じる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

今年8月の夏の宿泊研修では、甲賀市・湖南市を訪問しました。忍術屋敷や善水寺の見学から地域の歴史の奥深さを知り、信楽のまちなみ散策ではたくさんの信楽焼きの狸が出迎えてくれました。

訪問先の病院の方から、地域の歴史や文化を知ることは、医療に携わる上でとても大切なことであると教えていただきました。また、研修医1年目の先輩医師、保健師として働き始めた先輩方とお話する機会をいただき、いきいきと働く先輩からも、参加学生は多くを学んだように思います。

次回春の宿泊研修は、3月に彦根市・米原市方面を訪問します。滋賀県の医療を知り、その土地の歴史や文化そして食にふれる研修旅行です。多くの学生の方々の参加をお持ちしています。地域の皆さまどうぞよろしくをお願いします。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.11

発行：平成28年12月1日

編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803

Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp

URL：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/